オーバーハウザー博士ご逝去のお知らせ

2011年12月10日に物質の核スピンの分極に関するオーバーハウザー効果の発見で著名なオーバーハウザー博士（Albert Overhauser）が86歳でご逝去されました。日本核磁気共鳴学会では、NOESYやDNPの基礎原理となっているオーバーハウザー効果の発見者としての博士のＮＭＲにたいする多大な業績と貢献をたたえて、深く追悼の意を表します。

オーバーハウザー博士(Albert Overhauser)は1925年8月17日、CaliforniaのSan Diegoで生まれました。博士は高校の先生になること目指して、University of Calfornia, Berkeleyで物理および数学を専攻されました。一旦、学業は第二次世界大戦時海軍に従事した後、1948年に学士、1951年に物理学で博士号を授与されました。その後直ちにUniversity of Illinoisで研究を始められ、1953年からは、Cornel University, 1958年からはFord Motor Companyで研究を行いました。1973年よりPurdue Universityに移り、以後30年にわたって研究を続けられました。

博士の最大の業績は物質の核スピンの分極に関するオーバーハウザー効果の発見であることは、その後、NOESYやDNPの基礎原理として今日のＮＭＲ分光法においても使われていることから明らかです。この原理は最初にPhys. Rev. 91, 476 (1953)で発表され、直ちにCarver and SlichterによってPhys. Rev. 92, 212-213 (1953)で確認されました。その後、Overhauserによって発表されたPolarization of Nuclei in Materials, Phys. Rev. 92, 411-415 (1953)は600回以上引用される著名な論文となっています。

日本核磁気共鳴学会では核磁気共鳴における感度増強の基礎原理を発見されたオーバーハウザー博士の業績を知ってもらうため、ここに追悼の意を発信させていただきます。

日本核磁気共鳴学会理事会